

第4回北九州市基本計画見直し検討委員会 議事概要

日 時 平成 25 年 6 月 3 日(月) 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所 ホテルクラウンパレス小倉 2 階 香梅の間

出席委員

太田 康子 (北九州市婦人会連絡協議会事務局長)

岡田 知子 (西日本工業大学教授)

古城 和子 (九州女子大学教授)

近藤 倫明 (北九州市立大学学長)

成田 博澄 (福岡県警察北九州市警察部長)

比山 穰 (公募委員)

細川 文枝 (公募委員)

吉塚 和治 (北九州市立大学教授)

(敬称略・50音順)

1 開会

－委員長挨拶－

2 議事

(1) 「元気発進！北九州」プランの体系イメージについて

－「資料3」に基づいて事務局より説明－

(2) プランの進捗状況(4年間の成果と課題等)の説明について

－「資料4-1」、「資料4-2」、「資料4-3」、「資料4-4」、
「資料5」、「資料6」に基づき事務局より説明－

(3) 討議内容(主な委員意見)

①「V-1 都市の発展を支える拠点地区の整備」について

岡田委員

- 本市が実施している「街なか居住」を促進し、コンパクトシティへの誘導の政策を行っていることは、正しい路線だと考える。これは、本市の目指す低炭素社会実現の役に立ち、限りあるコストを有効に使えることとなる。
- 課題は中心市街地活性化であり、都心居住を促進する施策（都心の未利用地や低利用地を居住施設にしていくような施策等）をもっと行い、土地の流動化を図るための定期借地等の方法を一層情報発信していく必要がある。
- 北九州空港跡地の産業団地は、アクセス整備に課題があると考ええる。
- 産業観光も積極的に促していく必要がある。

比山委員

- 「街なか」の定義を、再度見直すことを考えても良いのではないかと。
- 建物建てるために公共整備の負担が割合的に高くなる地域においては、その住宅用地の減税措置を託していくような制度を考えるなど、抜本的な改善が必要。
- 観光地として門司港レトロ地区が有名だが、海峡という日本の中でも珍しい北九州・下関にもスポットを当てた取り組みがあってもよいのではないかと。

古城副委員長

- 都市計画を行ううえで、5市合併という形から離脱していく、今が時期と考える。北九州市という一つの市として、ビジョンを練り直し、大きなグランドビジョンをつくってはどうか。
- 従来の観光だけではなくて、いわゆる医療観光のような、今のツーリズムの流れを勉強する必要があるのではないかと。

②「V-2 交通・物流基盤の機能強化とネットワーク化」について

古城副委員長

- 高齢者のためのバスがあるが、利用率が低くなるとやめるなど、事業等が単発的。北九州の交通システムの仕組みを、市民にも分かるよう体系的に整理し、説明することは、市民にとっても有効的であると考ええる。

岡田委員

- 韓国からの観光客は重要なポイントなので、うまくフェリーとか、航路の開拓をやってほしい。
- 北九州市には、自動車産業がかなり集積し、環境エネルギーとの関連産業も特徴ある施策を打っている。このようなことやものをつなげていくためにも、24時間空港を、もっと積極的に活用していただきたい。
- 港湾関係で、ひびきコンテナターミナルの稼働率がかなり低い。積極的な活用を。

比山委員

- 環太平洋エリアの接点として、新たなゲートの機能を北九州が担う可能性も出てくる。時代の変化に対応した、戦略や行動をスピーディに進めていくということが必要。

太田委員

- 今後とも、高齢者や子どもなどが安心して歩ける道づくりをしていただきたい。

③「V-3 都市基盤・施設の効率的な活用・整備」について

岡田委員

- 自分の住んでいる地域の環境はどうあるべきかや、土地利用のあり方はどうなのかということを、地域住民が考え決定し、それを自治体が財政的、法的に支援していく仕組み作りといったような、まちづくりのあり方を変えていく必要があるのではないか。
- 市民主体のまちづくりの仕組みづくりが、既存の施設や建物だけではなく、道路、港湾、河川といったような都市施設も含め、効率的な有効活用につながるので、この仕組みづくりは重要である。

比山委員

- 都市インフラの整備については、行政がしっかりリードしていく必要がある。

成田委員

- どの課題においても、地域コミュニティ力がポイントとなる。昨今、きずな的な要素が非常に薄くなっていると言われており、地域自体がまだ熟していないように感じる。行政だけに頼るのではなく、自分たちでどうやるんだというような力を養成していく必要がある。

太田委員

- まちづくり協議会の役員はマンネリ化している。リーダーがまちづくりの勉強をし、多くの人を巻き込んで活動すれば、自分たちもまちづくりに参加しているという意識につながり、コミュニティの広がりにもつながると考える。

④「VI-1 世界に広がる市民環境力の発揮」について

太田委員

- レジ袋お断り率は、伸びていない。市民の関心が薄いのではないかと疑わざるを得ない。平成27年3月には、カンパスシールは打ち切りになるが、これを機にレジ袋有料化へ移行するのか伺いたい。
- 市民の様々な取り組みが、どのように役立っているかを市民に知らせ、分かってもらえれば、様々な取り組みも身につけ、関心のある市民も増えるのではないかと。

⑤「VI-2 地域からの低炭素社会への取り組み」について

細川委員

- ソーラーシステム等を付けたりと、断熱工事に費用をかけても、元を取るのに約 20 年かかり、工事費と実際に浮くお金の比率が悪く、改修工事に至っていない。
- 太陽光に関しては、リサイクルが行われず、約 10 年後かなりの量が出てくる。リサイクル活用が今後の課題である。

⑥「VI-3 循環型の生活様式・産業構造への転換」について

吉塚委員

- 日本での環境ビジネスの成立は経済的コスト等を考えた際、難しい。よって、海外展開を図っていく必要がある。
- 環境ビジネスと自動車産業や航空機産業等をパッケージ化した企業誘致が必要

⑦「VI-4 豊かな自然環境と快適な生活環境の確保」について

成田委員

- 環境問題については非常に発信力も高く、先見性もある。環境問題を捉えた様々な事業展開やこれらを視野に入れた、企業と共に新しいエネルギーの開発、地域の開発といったことに、取り組んでいただきたい。
- 東田地区がエコタウンハウスや水素ガスの再利用など、いろいろな形で企業と共に、新しいエネルギー開発に創意工夫をしている。
- 北九州で環境問題に関する閣僚級会議が開催されたことは、非常に環境問題に関する発信力や経験、伝統が考慮されたと認識している。

太田委員

- レジ袋のお断りや生ゴミの減量化など、関心がない人にも関心が向くよう、知らせていくこと、知っていただくことが肝心である。

比山委員

- 環境にやさしい製品が開発されているが、資源調達から廃棄まで考えて本当に環境にやさしいかどうかの情報がなかなか一般市民に伝わっていないので、市民に伝わるような取り組みがあるとよい。

古城副委員長

- 集団と言ったときに、家族や職場集団等があるが、もう 1 つ大きいのは、第 3 の集団で、趣味とかネットを共有する集団である。これらの集団に目を向け、市のホームページなどの作り込みを充実させて、興味や関心のある情報発信が行えれば、今は手付かずの子育て世代においても、集団の結成がなされるなど、市民力の育成の糸口になるのではないかと考える。

近藤委員長

- ESDの取り組みについての認知度が低い。学生や自治会等に所属していない方に対しても情報発信できるような取り組みが必要であり、行政側も積極的に推し進める必要がある。

細川委員

- 大手スーパーに働きかけ、例えばレジ袋はお金を出して買うようにするなど、レジ袋のあり方を変え、その収益を別の環境事業に使うなどの方法をとってはどうか。

成田委員

- PM2.5の関係で、北九州市でいち早く運動会、体育大会の関係で方針を決定し、主体的に動いたと実感した。行政の情報発信は非常に大切である。

⑧「Ⅶ-1 アジアを中心とした国際戦略の推進」について

吉塚委員

- 東南アジア諸国、特に今からはミャンマーあたりも非常に重要な拠点になると思う。そういう所を中心とした国際戦略に努めていただきたい。

⑨「Ⅶ-2 物流基盤を活かした国際ビジネスの振興」について

近藤委員長（羽田野委員欠席に伴い、羽田野委員より言付かった意見を代読）

- 北九州市は国の総合特区と環境未来都市に選ばれた。これは北九州市の整備された物流基盤、ものづくりの技術、人材の厚みなどのポテンシャルが国から認められたものである。
- 国際戦略総合特区と環境未来都市のダブル選定をテコとした、アジアへのビジネス展開が必要。
- 市も市内企業のビジネス競争力を強化するため、国へ積極的に支援策を提案すべきである。

⑩「Ⅶ-3 アジアの巨大都市と連携・競争できる広域連携の推進」について

比山委員

- 北九州の地理的位置を有効に活用した連携のあり方を考えていく必要がある。
- インドネシアやインド、東南アジアや南アジアを意識した戦略も必要であり、この戦略についても、スピードが大切である。
- 東九州自動車道を中心とする東九州軸のインフラ整備や、西瀬戸圏を意識した東九州軸を活用した戦略的な視点が必要。
- 様々な産業をパッケージ化し、アジア進出を考えることが大切で、市に還元できるビジネス支援のあり方、極端な言い方をすると、海外で稼ぐことができる自治体というくらいを目指す気持ちがあってもいいと思う。

成田委員

- 太刀浦港と響港ではコンテナの利用率が大きく違う。どこにその格差がつく原因があるのか。

港湾空港局物流振興課

- 太刀浦は昭和 50 年代にできたかなり歴史のある港で、ひびきコンテナターミナルは平成 17 年にできたターミナルで、歴史の長さが違う。一番初めにコンテナターミナルができたのは、太刀浦の隣の田野浦という所で、これは西日本として最初の本市の港である。その後に太刀浦ができ、かなり歴史が長く、いわゆる港運業者とかの集積が進んでいることに加え、いろいろな物流基盤が整っている港である。響灘地区においては、現在、かなり倉庫が出来てきているが、まだまだ不十分ではないかと思う。

太田委員

- 自転車専用道路は、学生が通学等で頻繁に利用する道路に早めにつくって欲しい。

吉塚委員

- 福岡県にはレアメタルリサイクル推進協議会、北九州市にはリチウムイオン電池のリサイクル研究会がある。小型家電も含め、いわゆるリサイクル事業が進んでいるので、是非、福北都市圏で連携いただきたい。
- 市内循環のバスを電気バスにするなどといった、特区のような事業があってもよい。

近藤委員長

- 北九州は、福北という連携の西の方向を向いた取り組みと、東を向くという取り組みの分岐点にある。よって、東九州の中で高速道路網と一緒にした戦略を、作っていただきたい。

細川委員

- 北九州独自の法を作るなど、北九州に住民票がある人は、全員が町内会に加入するというようなことはできないか。
- 住民届や出生届を出しに来た際、町内会に入ることを行政が推進すれば、入りやすいのではないか。

副市長

- 強制はできないが、マンションを建てるときに、建設業者に必ず町内会への加入のお願いをしている。また、できるだけ入りやすくするということは、これからも徹底していきたい。

細川委員

- 住民票の移動手続きの際、行政側から自治会の役員を紹介してほしい。

比山委員

- 行政の支援のあり方（いろいろな局がそれぞれで支援をやっている状況等）を改善していただきたい。